



伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 ☎(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 ☎(78)1121
 会長 藤澤洋二 幹事 小松献臣 会報委員長 城取健太 第2918回例会 2020.11.19 No.1578



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ

Rotary Opens Opportunities

ソング それでこそロータリー

ビジター・ゲスト紹介

伊那ロータリー杯事務局 宮下成彰様
 中川中学校 根石準也先生

会長談話 藤澤洋二会長

今日は、9月21日22日の第19回伊那ロータリー杯 上伊那中学校野球大会の運営にあたって下さった、伊那ロータリー杯事務局長の宮下成彰様、中川中学校の根石準也先生においでいただきました。大会の折には大変お世話になり、ありがとうございました。

宮下様には、19年間の長きにわたり、事務局長をお務めいただき、本当にありがとうございます。

後ほど、伊那ロータリー杯につきまして卓話をしていただきます。よろしく願いいたします。

話は変わりますが、皆様のお手元にお配りしてあります本、「ロータリーモチベーション」についてご紹介します。

この本は、2600地区の研修リーダーの関 邦則パストガバナーが作成され、2600地区に寄贈されたものです。関パストガバナーのお言葉によりますと、「ガバナーの任期を終了してから今日まで、いくつかの地区内のセミナーでレクチャーを担当し、そのたびに作成したスライド・テキストが多くなりました。コロナ待機を機にそれらをもとにしてロータリーの学びに活用できそうな内容構成のテキストにまとめ直してみました。」とのことでした。

成田ガバナーから、パストガバナー・研修リーダーの関様の熱い思いを、2600地区の各クラブ全会員の皆さまにお届けすることで、ロータリーの魅力を発見し、身近に感じていただきたい、とのご案内をいただきました。



テキストは、新会員向けのパート、在籍年数の浅い会員向けのパート、これからロータリーのリーダーを務める会員向けのパートなどに分かれ、盛りだくさんで、大変勉強になる内容です。ぜひ、お読みいただきたいと思います。

幹事報告

1. 地区事務所より、「The Rotary Motivation」をいただきました。これは第2600地区パストガバナー、地区研修リーダー関邦則様が地区内セミナーで作成したテキストを基に、ロータリーの学びに活用してほしいとまとめられたテキストです。2100部が地区に寄贈されました。ご活用ください。

2. 駒ヶ根ロータリークラブより、「ネパールカレンダー2021」を5部頂きました。

カレンダーの寄付は任意ですが、支援として1部1,000円でお買い上げいただければと思います。ご購入いただける方は事務局にお申し出ください。

出席報告 会員数54名 内出席免除15名 出席者32名 事前メーキャップ2名 出席率70.83%

ニコニコボックス

藤澤洋二・小松献臣 伊那ロータリー杯事務局長の宮下成彰様、中川中学校の根石準也先生、ようこそいらっしゃいました。クラブ員一同歓迎致します。今日は宜しく願い致します。

赤羽弘之 ようこそ宮下成彰様根石準也先生。本日は卓話をよろしく願いいたします。

竹腰哲夫 伊那ロータリー杯では大変お世話になっている宮下成彰さん、ようこそおいでくださいました。歓迎致します。

卓話 伊那ロータリー杯事務局 宮下成彰様
 中川中学校 根石準也先生

演題「伊那ロータリー杯について」

(紹介者 赤羽弘之情報・プログラム委員長)

根石準也先生

中川中学校に勤務して5年になります。そして、3年間、上伊那中体連の軟式野球競技の専門委員長を務めております。専門委員長の主な仕事は中体連の大会の運営になります。



中体連の大会は夏季大会と秋の新人戦の2つがあります。伊那ロータリー杯はその新人戦のシード戦として毎年9月に行われており、上伊那の中体連にとってはなくてはならない大会となっています。また、こういったいわゆる冠のついた大会はロータリー杯だけです。運営は中体連と宮下さんを中心に行っていますが、当日のボール代や審判代、石灰代などは伊那ロータリークラブ様よりご提供いただいています。また、成績上位チームへ景品なども頂いています。こうした物心両面の支えがある事を大変ありがたく思っており、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

さて、そんなロータリークラブ様に支えられて頂いている上伊那の中学野球の現状ですが、近年の少子化の中においてはそれに逆行するような盛り上がりを見せています。現在13校に野球部があります。上伊那の中学校は全部で14校なので、上伊那の野球熱は高いと言えます。同じ南信の諏訪や下伊那は、学校数は16,17あり、それぞれに部活がありますが、近年は合同チームが増えています。先月行われた新人戦では、諏訪や下伊那は合同チームを入れて11チームの参加に対して、高遠中学校は箕輪中学校の1年生を借りて出場し、上伊那は13チームが参加しました。私が勤めている中川は、1学年40人から50人の小さな学校ですが、単独チームで出られています。

なぜそんなに野球部が増えているかという、小中高の連携がどの学校でも出来ていることが要因かと思われます。今の時期はどの中学校も地域の少年野球チームを招待して、一緒に練習したり、試合をしたりすることで先輩と顔見知りになり、野球を続ける事へのハードルを下げる事が出来ます。また、中高の交流も行い、高校進学後も野球を続ける生徒が増えているおかげで、上伊那の野球熱が高いと思います。私より以前に上伊那の中学校野球を盛り上げようと奮闘している、春富中学校の小島先生や前専門委員長の伊那中学校の伊藤先生が音頭を取り、上伊那をさらに盛り

上げて日本の中心になろうとして引っ張ってくれています。おととしの8月に伊那スタジアムで行われた上伊那ダイヤモンドスポーツフェスティバルでは、中学生がキャストになり、野球未経験の小学生や保育園児と一緒にキャッチボールをしたりストラックアウトに挑戦したりしました。また、毎年12月には上伊那ダイヤモンドスポーツミーティングと銘打ち、様々な専門家を呼び、講演会や分科会を企画しています。そこには中高の野球部員や少年野球のコーチもたくさん来て一緒に学び合っています。

そんな試みが上伊那の野球熱を燃やし続けていると思います。それによって、私が専門委員長になってから3年間で中体連と新人戦合わせて6大会ありましたが、そのうち4回上伊那の中学校が南信優勝しています。その他にも軟式野球連盟の大会を入れれば、さらに多くの上伊那の中学校が県大会に出場しています。2年前は上伊那6位で南信大会に出場した箕輪中が、最後は県3位まで、あと一つ勝てば北信越大会というところまで行きました。他の地域と練習試合をすると、多くの顧問の先生方が上伊那のレベルの高さ、顧問のまとめ、情熱はすごいと言ってくれます。

しかし、勝つことと同じくらい幸せな事は子供たちの成長を目の当たりにできる事です。3年間で本当に子供たちは成長して、指導の仕方や子供との接し方でみるみる力を付けて顧問が思ってもいないようなことをしてくれます。例えば今年はコロナの影響で夏の中体連が開催出来ませんでしたが、上伊那大会だけはやる事が出来ました。3年生にとっては最後の大会です。中川中の1回戦の相手は辰野中でした。辰野中は秋の新人戦で南信大会優勝、北信越大会にも出ている強豪です。その隣のブロックが箕輪中で、新人戦では辰野中に準決勝に負けて3位というまさに死のブロックでした。でも、中川中は新人戦上伊那大会1回戦負け。誰が見ても中川が勝つなんて思ってもいないです。私は中川も力があるから絶対勝てると信じてやってきました。実力が同じくらいならば気持ちの問題だと思って予祝もしました。ヒーローインタビューの練習をして先に祝うことをしました。当日も会場の誰も中川が勝つなんて思っていない。みんな辰野と箕輪がやると思ってるぞ。ワクワクするだろ。後半同点か1点差ならば必ず勝てると言って送り出したら、1点負けて

いた6回裏に集中打で4点を取って逆転勝ちしました。箕輪戦も中学生では珍しいオーバーフェンスのホームランを打ったのですが、最後は延長タイブレークで負けてしまいました。勝つと信じてやること、また生徒の底力に本当に感動させられました。

今のチームは2年生が11人いますが、そのうちの5人は野球未経験者です。昔のように部員が20名いて、みんな経験者は遠い昔です。だから、ボールの握り方やルールの初歩的な所から教える事が出てきました。また、女子の部員が昔に比べると多くなっています。また、今は球数制限があり1日100球となっています。昔はエースが一人いれば勝てる時代でしたが、今は複数人ピッチャーを育てないと勝てません。中川もまずは全員ピッチャーを経験させています。そう考えると私達指導者も初心者に教える技術や女子に教える工夫などいろいろ進歩していく必要があります。

最後に、高校生の活躍です。昨年の伊那弥生ヶ丘高校の夏の大会準優勝は記憶に新しいと思いますが、今年の秋の県大会に伊那北高校と赤穂高校が出場しました。両校とも軟式野球出身の生徒が数多く参加しています。赤穂中の4番と5番は中川中の出身です。箕輪中に負けて南信に出られなかった代だったので、私もとても嬉しく思っています。また、先日春の選抜大会を決める北信越大会で準優勝してほぼ出場当確の上田西高校ですが、そのレギュラーキャッチャーは春富中出身の1年生です。また、現3年生でキャプテンをしていたのは赤穂中の出身です。このように、上伊那の中学野球出身の生徒が上伊那はもちろん全県で活躍しています。そんな上伊那の中学野球を支えてくださるロータリークラブには、今後ともお力をお貸しいただければ幸いです。

宮下成彰様

伊那ロータリー杯は、2002年中学生の野球大会としてRC主催で始まりました。以前より、地域で早起き野球大会がありましたが、年々チームが減少し運営自体が厳しくなってきたため、何とか中学生大会だけでも定期開催したいという思いがあり、当時父宮下光一がRC会長をしていたことからRC主催で開催していただけることになりました。



第1回から第3回までは一日開催でしたが、4回大会より2日間開催となりました。途中中体連行事としてグラント賃借費用の公的負担により教育委員会主催という話も浮上しましたが、ロータリーの冠大会という位置づけを維持すべく、費用はRC負担で継続開催し現在に至っております。

大会当初は中学生選手の野球技術のレベルも高くなく、大味な試合も多かったのですが、技術レベルも相当上がり、強いチームも多くなってきました。

自分の息子も野球をやっておりましたが、あまり上手でもなく、試合にもなかなか出られない日が続きました。試合に出られない悔しさや残念な気持ちも、親である自分でさえ実感でき、良い経験になったと思います。

今年度はコロナ禍の中、RCの多大なご支援の下、第19回大会を開催することが出来、大変感謝しております。ありがとうございます。

来編は第20回大会となりますが、これをもって一応一区切りつけ、終結したいと考えております。優勝杯や優勝旗の今後の取り扱いについても相談させて頂きたいと思います。また、ロータリー杯としては来年で幕を閉じることになりますが、伊那RCとしても、健全な青少年育成の観点から、是非野球に関する事業も行っていって頂きたいと思います。

20年という大変長い間ご支援いただき本当にありがとうございます。来年最終回では、大勢の観客の中、盛大に開催されることを切に希望しております。